

シンガポール 教育ガイド



Photo Credit: Ministry of Education

免責事項

『シンガポール教育ガイド』をお読みいただきありがとうございます。

本書の内容は、いかなる保証も伴わない「現状のまま」提供されます。適用される法律で認められている最大限の範囲において、本書の内容の正確性、完全性、信頼性、最新性、適時性、知的財産権の非侵害性、権利の適法性、商品性、特定目的への適合性についての明示又は黙示の保証もされません。また、本書を通じて利用可能なコンテンツまたは関連するサービスや機能が中断されないこと、エラーが発生しないこと、欠陥が修正されること、本書およびサーバーにコンピューターウィルスまたはその他の有害な要素が存在しないこと、今後も存在しないことに関する保証を一切行いません。さらに、本書の使用（直接的・間接的を問わず）により生じた一切の損害または損失（本書に含まれる情報または本書から得られる情報に依拠した結果として生じた損害または損失を含みますが、これらに限定されません）について、発生の原因や態様を問わず、EDB は一切の責任を負いません。

本書の内容は、情報提供のみを目的としています。専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。

EDB は、本書の内容を随時更新または修正する権利を有しますが、本書の情報を更新する義務はありません。また、いかなる理由によっても、特定の個人に対する本書へのアクセスを拒否または制限する権利、またはインターネット上の特定のアドレスからの本書へのアクセスをブロックする権利を有します。

EDB は、リンクされた外部サイトやそれらのサイト内のリンクに関して、一切の責任を負いません。本書内のハイパーリンクは、あくまでも読者の便宜を図るために提供されるものであり、EDB がその内容を推奨または保証するものではありません。

本書またはその一部を、EDB の書面による事前の承諾なしに、いかなる形式でも複製、配布、改変することは禁止されています。

© 2025 Economic Development Board. All rights reserved.

目次

- 01** シンガポールの教育理念
P4
- 02** 公立教育制度の概要
P5
- 03** 公立学校と私立学校の比較
P6-7
- 04** プレスクールの概要
P8-11
- 05** インターナショナルスクールの概要
P12-13
- 06** 高等教育機関の概要
P14
- 07** 障害のある生徒のための特別教育サポート
P15
- 08** シンガポールの公立校と日本の学校の違い ～マメ知識～
P16
- 09** 入学手続きの開始
P17-19
- 10** 奨学金と経済的支援
P20
- 11** おわりに
P21



シンガポールの教育理念

1965年の独立以来、シンガポールは発展途上国から、経済的にも社会的にもグローバルでの存在感をもつ先進国へと変貌を遂げました。この成功の多くは、児童・学生の能力を最大限に引き出すとともに、生涯にわたり学び続ける文化の促進に重点を置いた教育制度に支えられています。

当地では教育改革が進み、学業成績重視から個性を伸ばす柔軟な教育へ移行しています。バイリンガル教育も重視され、英語と母国語の習得を通じて、多文化社会での適応力を養います。また、国際的な進学に対応したカリキュラム（IB、Aレベルなど）や多様な国際学校があり、生徒は将来の進路に応じた学びを選べます。

数字でみるシンガポールの教育の質

**世界
第1位**

学校の質の高さ⁽ⁱ⁾

**世界
第2位**

科学、数学、読解力⁽ⁱⁱ⁾

30以上

国外の教育システムを
導入している学校数⁽ⁱⁱⁱ⁾

Source: (i) HSBC, Expat Explorer Survey 2019; (ii) Organisation for Economic Co-operation and Development Programme for International Students Assessment (PISA) 2018; (iii) The Business Times, “Singapore seeks to attract more foreign system schools”, 28 April 2015

公立教育制度の概要

シンガポールには、公立校と私立校の2種類があります。

その教育システムは世界的に高く評価されており、公立校・私立校ともに優れた水準を誇りますが、外国人駐在員の多くはインターナショナルスクールなどの私立校を選ぶ傾向があります。

以下に、公立教育制度についてご紹介します。



Pre-School プレスクール (3年間)

3歳から就学前教育を受けることが可能です。プレスクールには、半日または全日保育や、キンダーガーデン(幼稚園)教育が含まれます。これらは、幼児期に自分に自信を持つこと、社会性を身につけること、読み書きや計算の基礎を学ぶことに重点を置いています。



Primary School 小学校 (6年間)

7歳の小学1年生から始まる義務教育。カリキュラムは、子どもたちの長所を認識し、各自の可能性を伸ばす学習機会を提供することを目的としています。小学6年生の終わりに全国統一テストである Primary School Leaving Examination (PSLE：小学校卒業試験)を受けます。



Secondary School 中学校 (4～5年間)

日本の中学校に相当し、生徒は幅広い教科や学業以外の活動に触れるとともに、個々の長所や興味に合わせて進路を計画することができます。修了時には GCE「O」レベル試験または GCE「N (A)」レベル試験のいずれかを受験し、高等教育機関への進学が目指せます。

2027年から、現在の GCE O-レベルおよび N-レベル試験は廃止され、すべての中等学校の生徒が対象となる「シンガポール・ケンブリッジ中等教育修了証 (SEC)」試験に一本化されます。これにより、2024年以降に入学する生徒は、卒業時に SEC 試験のみを受けることになります。



Pre-University 高等教育 (2～3年間)

中学校を修了した学生は以下のことが可能です。

- ① GCE「A」レベル試験につながるジュニア・カレッジ（高校に相当）に入学
 - ② ポリテクニク（高等専門学校）、スポーツ、芸術系の教育機関でディプロマを取得
 - ③ ITE (Institute of Technical Education: 技能教育研修所) や SHATEC (The Industry School for Culinary and Hospitality Talents: 料理やホスピタリティ分野の人材育成専門学校) などの学校で職業訓練を受講
- その後、シンガポールの公立大学、または私立の高等教育機関で学ぶこともできます。

公立学校と私立学校の比較



公立学校

大学入学前まで年間S\$9,378～S\$21,762。

小学校

シンガポール国民
S\$13(月間)

シンガポール PR (永住権保持者)
最大 S\$343(月間)

外国人生徒
アセアン：最大 S\$609.17(月間)
非アセアン：最大 S\$1,049.17(月間)

中学校

シンガポール国民
S\$25(月間)

シンガポール PR (永住権保持者)
最大 S\$700(月間)

外国人生徒
アセアン：最大 S\$1,111.80(月間)
非アセアン：最大 S\$2,211.80(月間)

高等教育

シンガポール国民
S\$33(月間)

シンガポール PR (永住権保持者)
S\$787(月間)

外国人生徒
アセアン：最大 S\$1,319.43(月間)
非アセアン：最大 S\$2,569.43(月間)

学校納付金および雑費の税率は、教育省および各学校によって随時見直されます。[こちらの](#)料金計算機を使うと、各自の学費の計算が可能です。



私立学校

大学入学前まで年間S\$13,000～S\$50,000。
人気の高いインターナショナル・スクールの学費をいくつか抜粋して算出。詳しくは各スクールのウェブサイトを確認を。

シンガポール日本人学校

小学部 S\$7,259.40

中学部 S\$8,175 (グローバルクラス
S\$11,837.40)

ファシリティ費 S\$1,700.40

入学金 S\$1,090/S\$3,924(日本人会未登録)
施設費 S\$2,725

シンガポール・アメリカンスクール

プレスクール S\$26,610

キンダーガーデン～ハイスクール
S\$36,370～S\$42,300

入学検定料 S\$2,500

入学金
米国パスポートまたはグリーンカード所持者
S\$8,370 同非保持者 S\$9,900

毎年の再契約料 S\$2,500

ファシリティ費／ビルディング費／資本金／
開発費用 S\$8,720

チャッツワース・インターナショナルスクール

キンダーガーデン S\$29,367.30

1年生～13年生
S\$33,774.40～S39,971.40

入学検定料 S\$310

入学金 S\$3,100

ファシリティ費／ビルディング費／資本金／
開発費用 S\$2,715.80

※表示されている学費、申請料、入学金、
諸費用はすべて年額



費用

大学入学前までに
限った費用の比較

※諸費用含む、
2025年1月現在。

外国人保護者の方には、お子さんが希望する学校に入学できる可能性を高めるために、複数の学校を受験することが推奨されます。小学2年生から5年生、中学1年生から3年生に出願する外国人の生徒は、Admissions Exercise for International Students (AEIS) または Supplementary AEIS (S-AEIS) を受験する必要があります。

公立学校への出願に関する詳細は[こちら](#)。



入学プロセス

公立校と私立校の違いについて知るには、各学校のウェブサイトの参照やオープンキャンパスへの参加するなど、幅広く収集を行うことが望ましい。

留学生が私立学校への入学を申請するには、ビザを所有し、求められる各種書類を整えておく必要があります。入学手続きは学校によって異なるが、一般的には、基準を満たす成績要件、言語、数学、理科の入学試験、場合によっては面接による選考試験が含まれます。シンガポールの学生ビザ申請ガイドラインのチェックリストは[こちら](#)。

公立学校の学年度は1月に始まり、3月、6月、9月、12月に休みがあります。通常、午前7時に始まり、午後1時半に終わり、途中30分の休憩があります。補習や課外授業は午後2時から6時の間に行われることが多いです。

シンガポールの公立学校では、政府が定めるカリキュラムに基づき、「フル科目別編成 Full Subject-Based Banding (Full SBB)」が導入されています。この制度は、生徒が自分のペースで学べる環境を提供し、学ぶ喜びを育むことを目的としています。

中学校では、生徒それぞれの長所や興味、学習ニーズに応じて、各教科を最適なレベルで学ぶことができます。さらに、異なる強みや関心を持つ仲間と交流できる混合形式のクラスも取り入れ、多様な進路や成長の機会を広げています。



学期と授業時間

私立学校の学年度は8月に始まり、6月、10月、12月、3月に休みがあります。通常、午前8時に始まり、午後3時半に終わり、休憩は一般的により頻繁かつ長めに設けられています。学校の期間と時間は、各学校のカリキュラムにより異なります。



カリキュラム

私立学校のカリキュラムは、アドバンスト・プレースメント (AP)、ナショナル・カリキュラム、国際バカロレア、インターナショナル・カリキュラムなど多岐にわたります。

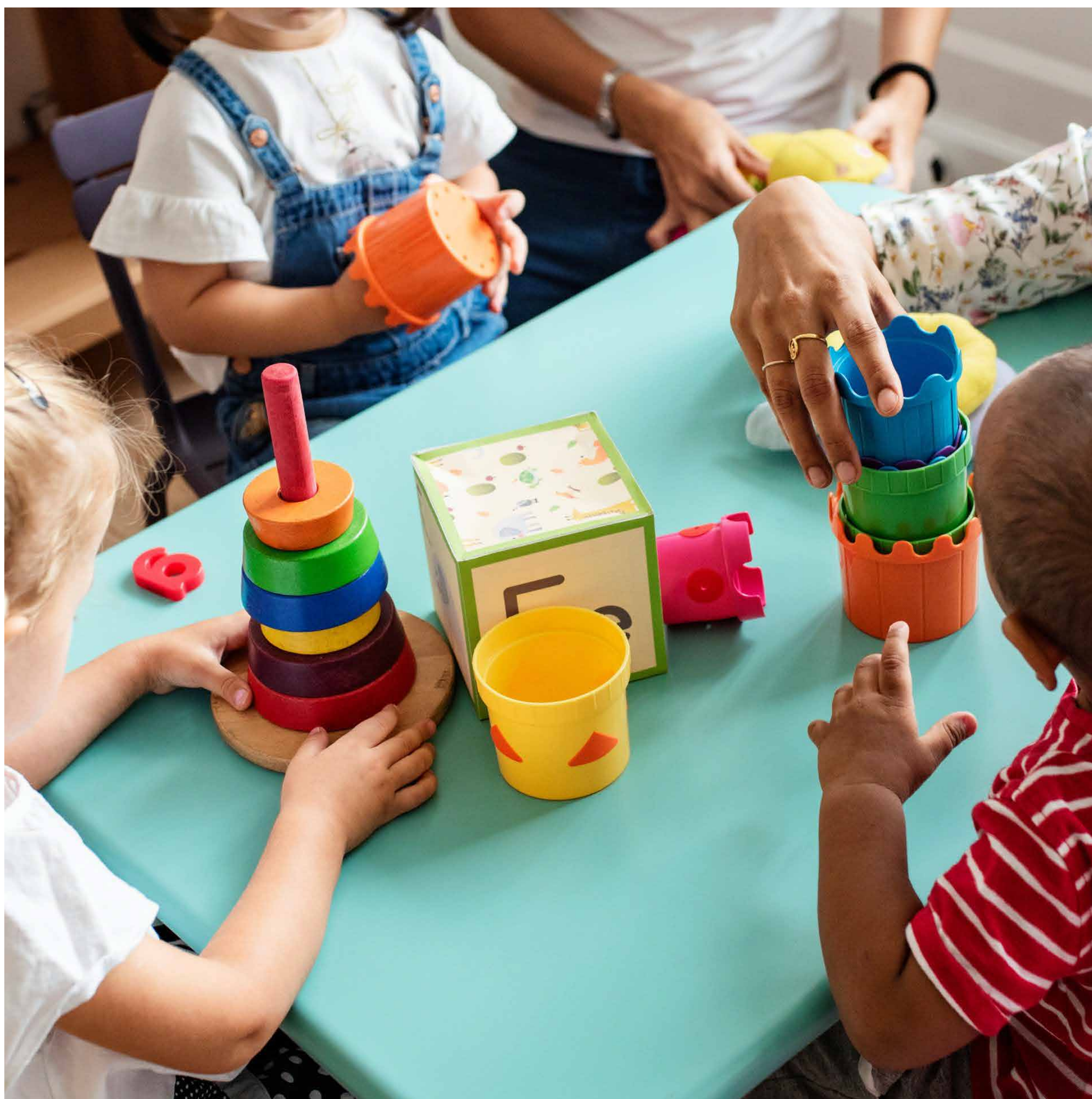


シンガポールは、安全な環境と高い教育水準を誇り、働きながら子育てをするにも非常に適した場所です。多文化共生の社会は、子どもたちに広い視野と柔軟な価値観を育むのに役立つと思います。

森村 美咲
パソナシンガポール Managing Director
2011年にシンガポールに移住

シンガポールの プレスクールの概要

遊びを軸に楽しみながら学ぶプログラムやお互いの言語で学び合うバイリンガル・イマージョン・プログラム、長時間の保育オプションなど、子どもと家庭のニーズに合ったプレスクールをきっと見つけることができるでしょう。



シンガポールのプレスクールの違いを理解する

シンガポールにはチャイルドケア、アンカー・オペレーター、オルタナティブ・キンダーガーデンといった様々な種類のプレスクールがあります。シンガポールのプレスクールを比較して違いを理解しましょう。

	教育の特徴	入学対象	学費（月間）	ウェブサイト
教育省（MOE）管轄のキンダーガーデン	- 「目的のある遊び」と「質の高い交流」を教育方針の中核とする国営幼稚園 - 総合的な学習を通して、バイリンガルの育成と全人的な発達に重点を置く - 開園時間は通常3時間 - 食事やおやつは幼稚園ごとにさまざま	シンガポール国民とシンガポールPR（永住権保持者）のみ	S\$150（国民） S\$300（PR）	MOE Kindergartens
アンカーオペレーター	- 政府補助金を受ける保育園（チャイルドケア） - 乳児保育や幼稚園プログラムを手頃な学費で提供 - インターナショナル・プレスクールよりも現地の小学校の文化に近い	すべての人が対象	園ごとに異なる。詳しくは各園の公式ウェブサイトを参照	- My First Skool - Sparkletots - MY World Preschool - Skool4Kidz - E-bridge Preschool (EtonHouse)
チャイルドケアセンター	- ECDA (Early Childhood Development Agency: 幼児教育開発機構) の認可を受けた民間運営 - 1歳半(18カ月)以上の子どもが対象 - 生後2カ月の乳児から対象とするところもあり - 午前7時から午後7時まで開園 土曜日は半日開園している場合もあり - 1日2食提供	すべての人が対象	国民はすべてのチャイルドケア・センターで補助金の利用が可能	チャイルドケア提供者のリスト
私立キンダーガーデン	- MOEが管轄する民営幼稚園 - 地元の公立小学校への入学準備に重点を置く	すべての人が対象	園ごとに異なる。詳しくは各園の公式ウェブサイトを参照	日系幼稚園 - シンガポール日本人幼稚園 - いろは幼稚園 - EIS International Pre-School (イーズ・インターナショナル・プレスクール) - Coco-ro Learning House (ココロ・ラーニング・ハウス)
オルタナティブキンダーガーデン	- MOEが管轄する民営幼稚園 - 独自に組み立てられた教育理念による進歩的な教育法が特徴 - 主なオルタナティブ・キンダーガーデンとしては、モンテッソーリ、レッジョ・エミリア、シュタイナーなど	すべての人が対象	園ごとに異なる。詳しくは各園の公式ウェブサイトを参照	Montessori for Children レッジョ・エミリア: - Between Two Trees - Blue House International School - Odyssey the Global Playschool

プレスクールを選ぶ際に 考慮すべき10のポイント

01 ロケーション

アクセスを確認しましょう。遠すぎる園では、子どもが通園するだけで疲れてしまう場合もあります。



02 カリキュラム

モンテッソーリ、レッジョ・エミリア、IBプライマリー・イヤーズ・プログラムなど、特定の教育システムを導入している園もあれば、より柔軟なアプローチで学習や遊びに取り組んでいる園もあります。

03 言語プログラム

バイリンガルプログラムや中国語ベースのプログラム、またはプログラムの一環として中国語を教える英語教育スクールなど、園によって導入している言語プログラムを異なります。

第二外国語の授業内容についても把握しておく心安心です。

04 特別なニーズ

お子様に特別な配慮やサポートが必要な場合は、特別支援学校でのサポート体制について調べておきましょう。

「Guide to Special Education in Singapore」

05 理念と価値観

学校の理念や価値観を知ること、ご家庭の価値観や子育て方針と一致する学校を選ぶことができ、相反する教育方法を避けることができます。

07 授業時間

登園時間やスケジュールも重要です。半日制(午前9時～午後12時)や全日制(午前9時～午後3時)に加え、午前7時～午後7時までのデイケア形式を導入している園もあります。

09 先生

オープンキャンパスに参加したり、学校や園を訪れたりして、先生と直接会うことが大切です。先生の経歴や学歴が適切であるかを確認するとともに、生徒との比率や、子どもの成長について保護者へどのように報告しているかも尋ねると良いでしょう。

10 費用

料金は園によって大きく異なることもあります。また、長期休暇がある園もあれば、ほぼ一年中開園している園もあります。

06 認定

シンガポール政府機関の認定されているプレスクールはSPARK(シンガポール就学前教育認定ガイドライン)の認定を受けています。この認定は、教育の水準を高めるために教育省が導入したもので、園を探す際の確認ポイントの一つです。

08 施設

おしゃれな内装の教室を持つ園もあれば、屋外で遊べるスペースを備えた園もあります。それぞれの園の施設と設備の特徴を把握しましょう。



プレスクール選びに役立つウェブサイト

- 『Spring』: [シンガポールプレスクールお役立ちマップ・リスト](#)
- 『Singalife』: [シンガポールの幼稚園特集](#)
- 『Culture Connection』: [シンガポールインター25校紹介](#)

インターナショナルスクールの概要

シンガポールには80校以上のインターナショナルスクールがあります。
ここでは学校選びの方法を紹介します。



主な特徴

ほとんどのインターナショナルスクールでは、国際バカロレア (IB) プログラム、ケンブリッジ国際中等教育修了証 (IGCSE) 資格、国際初等教育カリキュラム (IPC) など、国際的に認知された資格を取得することができます。

また、生後2カ月から5歳までを対象とした就学前教育を実施している学校もあります。インターナショナルスクール内のプレスクールは、少人数制で一人の教師が受け持つ生徒数の比率が低く、また、学期中のみ就学前保育を提供している場合もあります。

学校によっては、母国に準じたカリキュラムを採用しています。

- 早稲田大学系属早稲田渋谷シンガポール校
日本語による日本の高等学校に準じたカリキュラム
- シンガポールアメリカンスクール
アメリカのカリキュラム
- オーストラリアンインターナショナルスクール
オーストラリアのカリキュラム

シンガポールのインターナショナルスクールについての詳細は、[こちらの記事](#)を参照ください。

インター ナショナル スクールを 選ぶ際に 考慮すべき

10 のポイント



“

カリキュラムや華やかな施設だけにとらわれて学校を選んだり除外したりするのではなく、公立校・私立校それぞれの特徴を理解することが大切です。カリキュラムや施設は必ずしも最も重要な要素ではありません。

草埜 圭紀
Grow Up Global代表

1

学校のロケーション
と周辺環境や公共交
通機関の利便性

2

教育、スポーツ、文化
活動に必要な学校の
施設環境

3

ひとクラスの人数と
教師対子供の比率

4

学校による保護者と
のコミュニケーション
方法

5

子供の経験を広げる
課外活動プログラムの
確認

6

年間のスケジュール。
学校ごとに休暇や学期
の長さが異なります

7

カリキュラムの確認。
子供の教育ニーズや
家族の将来設計に
合った学校を探しま
しょう

8

第二外国語の選択肢
やノンネイティブ生徒
のための語学サポート
プログラムの内容

9

学校外の活動の有無。
遠足やボランティア
活動や地域活動に取り
組んでいる学校が
多くあります

10

保護者が学校活動に
参加することで、新
しい人々と出会い、
コミュニティの一員
として関わる良い機
会にもなります

シンガポールの 高等教育機関の概要

シンガポールは、韓国、日本、中国、フィンランドなどの教育先進国と並び、長年にわたって国際的な教育ランキングで上位に位置する教育大国です。

2018 年の OECD 学習到達度調査 (PISA) では、数学、読解力、科学の 3 部門すべてで他国を上回る優れた成果を収めました。

シンガポールには、多様な高等教育機関があり、お子様の得意分野や目標に応じた学びの場が用意されています。積極的に情報を集めることで、お子様に合った進路が見つかるはずです。



主な高等教育機関:

- ポリテクニク (Polytechnics)
- ジュニア カレッジ (Junior Colleges)、ミレニア インスティテュート (Millennia Institute)
- シンガポール スポーツ スクール (Singapore Sport Schools(SSP))、
スクール オブ ザ アーツ (School of the Arts (SOTA))
- 技術教育学院 (Institute of Technical Education (ITE))
- ラサール (LASALLE)、NAFA、シンガポール芸術大学 (University of the Arts Singapore)
- 政府系教育機関 (Government-affiliated educational institutes)
- 自治大学 (Autonomous universities)

障害のある生徒のための 特別教育サポート

個々のニーズや能力に応じて、特別な支援を必要とする生徒は一般の学校に通うか、非営利の VWO (ボランティア福祉団体) が運営し、教育省と国家社会事業委員会が資金援助する SPED (特別教育スクール)、またはその他の私立学校やインターナショナルスクールに通えます。

SPED は一般の学校に通うことが適さない子どもたちのために特化したプログラムを提供しています。カリキュラムは、こうした子どもたちが自立し、自給自足し、社会の一員としてコミュニティに参加できるようになることを目的としており、生徒たちは教室での学習とは別に、パラメディカルな専門家による追加サポートも受けられます。

特別な支援を必要とする生徒のために学校が提供するサポートの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。



シンガポールの公立校と日本の学校の違い ～マメ知識～

シンガポールの公立校・私立校の特徴を知っておくことで、お子様の教育選択に役立ちます。



☑ カフェテリア(Canteen)vs 給食

シンガポールの小学校・中学校・ジュニアカレッジ(JC)には、学校内にCanteen(学食)があり、学生はお小遣いを使って好きな食事を購入できます。

日本では給食が一般的ですが、シンガポールでは各自でお弁当を持参するか、学食で購入するスタイルです。

1食 S\$2～S\$4 ほどでローカルフード(チキンライス、ヌードル、カレーなど)が食べられます。

☑ 科目(カリキュラム)の違い

中学・高校では「追加科目(Electives)」が選べる。例えば、ビジネス、デザイン、コンピューターサイエンスなどが学べます。

日本の学校は科目が固定されていますが、シンガポールでは選択制が多く、高校以降は自分の進路に合わせた学習が可能です。

☑ 多言語を上手に学ぼう

シンガポールでは中国語を学ぶ機会が多く、授業以外では次の方法がおすすめです。

- 学校のCCAで中国語を使う機会を作る(例: スピーチ&ドラマクラブ、華語ディベートクラブなど)
- 中国人の先生によるクラスや個人レッスン(日本語対応の教室もあるので安心)
- 親子向けのコミュニティクラスで、ゲームや歌を通じて楽しく学ぶ

「苦手だから…」と心配せず、親子で楽しく自然に触れる機会を増やしましょう。

☑ 授業時間と学校のスケジュール

小学校は午前7:30～午後1:30頃で終了。中学・高校は午後3～4時まで授業があります。

日本より始業時間が早く(朝7時台)、下校時間も早いのが特徴です。

授業の間に「リセス(Recess)」があり、30分間食事や休憩の時間があります(日本の「昼休み」に近い)。

☑ 課外活動(CCA)の違い

シンガポールの中学・高校ではCCA(Co-Curricular Activities)の選択が必須です。

LEAPS 2.0 というシステムがあり、CCAの成績が進学や大学入試に影響します。

日本の部活動と似ていますが、シンガポールのCCAは週2～3回の活動が基本です。

☑ 母国語の言語選択

シンガポールの公立校では、英語が主要な授業言語で、すべての教科が英語で行われます。加えて、母語(中国語・マレー語・タミル語)のいずれかを第二言語として学ぶことが必須です。

なお、日本語は公立校の母語科目として認められておらず、第二言語として学ぶことはできません。

まとめ

シンガポールの教育制度は英語がメインの環境・全国统一試験重視・選択科目が豊富などの特徴があります。

進学先や将来の進路を考えながら、学校選びや課外活動の活用を検討することが重要です。

お子様の日本語能力を維持するために、日本の本や映画などを活用し、日常的に日本語に触れる機会を作りましょう。

シンガポールの大学進学に向けて、早めにカリキュラムを選びましょう。

幼少期から英語環境に慣れておくことが重要です。少しずつ学びを始めましょう。

シンガポールの学校の特徴を理解し、お子様に合った最適な学習環境を整えましょう。

入学手続きについての クイックガイド

✓ 入学に必要な書類のチェックリスト

入学時期や登録の条件は学校によって異なりますが、一般的に公立・私立学校への入学に際しては以下の書類が必要となります。

- 記入・署名済みの願書(学校によってオンラインまたは紙の書類で提出する場合あり)
.....
- 入学検定料(シンガポールの平均的な入学検定料はS\$1,500、正確な費用は各学校のウェブサイトを確認)
.....
- 出願者本人のパスポートサイズの写真
.....
- 出生証明書のコピー
.....
- パスポートのコピー
.....
- 保護者のパスポートコピー
.....
- 出願者本人の在留資格・ビザのコピー
(Dependent Pass、Student Pass、Permanent Resident Re-Entry Permit、Diplomatic Pass、Immigration Exemption Orderなど)
- 保護者の在留資格／ビザ
(Employment Pass、Dependent Pass、PR Pass、Diplomatic Pass)
のコピー
.....
- 正式な転校証明書、または、今年度と2年前までさかのぼった成績表(英語でない場合は公証翻訳されたもの)
.....
- 言語、教育心理テスト、学習ニーズの評価／記録(該当する場合)
.....
- 雇用保証書
(雇用主が学費を支払う場合)
.....
- 法的親権書類
(両親が離婚している場合)

注:提出書類はすべて英語または翻訳証明書付きの必要があります。

✓ 入学申請プロセス

書類が整ったあとの一般的な申請プロセスは以下となります。

01

書類を添えて志望校に申し込む

02

学校のプレースメントテスト(入学試験)を受け、入学許可書(LOA)を待つ

プレースメントテストに合格し、学校が入学を許可した場合、学校は入学許可書 Letter of Acceptance (LOA) を発行します。出願者はこの入学許可書をもってICA (入国管理庁) に学生パスを申請することができます(ステップ3参照)。

LOAの発行日から2週間以内にICAから学生パスを取得し、学校に本人が持っていくことが入学の条件となります。

ディペンデントパス (DP) またはImmigration Exemption Order (IEO: 移民免除令) を所持している場合は、ICAに学生パスを申請する必要はありません。クラス分けテストに合格すれば、ただちに入学が許可されます。

03

ICAで学生パスを申請する

LOAは発行日から2週間有効です。LOAを受け取ったら、出願者はただちにICAに行き学生パスを申請する必要があります。申請する際はICAに学校が裏書したLOAの原本を提出しなければなりません。

04

学生パスを持って2週間以内に学校へ行く

申請者はLOAの日付から2週間以内に、有効な学生パスを持って学校に行く必要があります。2週間以内に行かなかった場合、入学許可証は失効します。

S PassおよびWork Permit所持者の子どもの場合

シンガポールで S パス（技術職・管理職以外向けの就労ビザ）または Work Permit（労働許可証）を持つ親がいる場合、学校に出願する前に Civil Service College Consultants が実施する一般能力評価テスト（Assessment of General Ability）に合格しなければなりません。

資格試験を受験したい場合は General Ability Test Singapore の[ウェブサイト](#)からオンラインで申請できます。

受験者には資格試験の結果通知書が郵送されます。シンガポールの学校に入学する資格があると判断された場合、その手紙を添えて希望する学校に出願することができます。





奨学金と経済的支援

シンガポールでは、すべての子どもが平等に教育を受ける権利を持っています。経済的な理由で支援が必要な家庭には、学びの機会を確保するための制度も整えられています。

留学生を含む 全ての学生向け

メリットベース(家庭の収入に関わらず優秀な学生に与えられる奨学金)の賞と奨学金

留学生は、MOE授業料補助金、ASEAN奨学金、A*STAR青少年奨学金、南洋(Nanyang)奨学金、そのほか外部団体が提供する奨学金など、実力に応じた奨学金を受けることができます。

学資援助

シンガポール国立大学などの外部機関も、授業料、生活費、寮費をカバーする学資援助を提供しています。



Photo Credit: Kari Shea

役立つウェブサイト

- 1 [A Comparison of School Fees in Singapore \(2021\)](#)
- 2 [Scholarships for Singaporean and International Students](#)
- 3 [School Fee Estimator Tool](#)



おわりに

このガイドがシンガポールの
教育機関への入学の参考にな
れば幸いです。

ご興味のある方はこちらをご覧ください：

- [Guide to living in Singapore](#)
- [Guide to working in Singapore](#)
- [Guide to relocating to Singapore](#)

Contact Us



**Singapore Economic
Development Board (EDB)**
シンガポール経済開発庁

シンガポールの貿易産業省の下にある政府機関です。
シンガポールがビジネス、イノベーション、人材のグロー
バル拠点として発展するための戦略を推進しています。

EDBは、外国企業の誘致や産業の発展を通じて、活気
あるビジネス環境の創出と良好な雇用機会の提供に取
り組み、持続可能な経済成長の実現を目指しています。

🌐 www.edb.gov.sg/ja/
✉ japan@edb.gov.sg



Singapore Global Network(SGN)
シンガポールグローバルネットワーク

シンガポール経済開発庁 (EDB) の一部門として、プロ
フェッショナル人材、起業家、ビジネスコネクションの
ネットワーク構築を通じた経済成長を支援しています。

シンガポールでの勤務・居住経験のある方や、シンガ
ポールでのビジネスチャンスに関心のある方など、世
界中の148,000人以上のグローバル・プロフェッショ
ナルが参加するネットワークへ、[ぜひご参加ください](#)。

🌐 singaporeglobalnetwork.gov.sg
✉ hello@singaporeglobalnetwork.sg

Supported by



ASEAN-Japan Centre (AJC)
日本アセアンセンター

日本アセアンセンターは、日本政府とASEAN加盟国政
府の協定に基づき、1981年に設立された国際機関です。
日本とASEAN諸国間の「貿易」「投資」「観光」の促進、
さらには「人と人との交流」を通じた経済協力の強化
を目的に活動しています。

🌐 www.asean.or.jp